

生涯學習情報誌

Life Learning

4
2018
Apr.
NO.332



2017 (平成29年度)

50歳以上「博士号取得支援事業」

助成金授与者決定



平成29年度博士号取得支援事業の合格証授与式が3月16日(金)、東京・虎ノ門の生涯学習開発財団にて行われた。冒頭、財団理事長・松田妙子は、「博士号取得は目標ではなくスタートです。これから社会のため、国のため、それぞれの研究で培ったパワーを発揮し、大いに貢献してください。私の場合は、日本の伝統的木造住宅を復権させるために、建築の現場で活躍する大工の育成に尽力しました。私は90歳を超えても元気です。その源はバランスの良い食だと思っています。皆さんも健康に留意して研究を続けてください」と合格者たちを激励した。

●合格者と研究テーマ

大槻俊明 (67歳)

「数値制御工作機械の高速高精度性の評価と向上」

金沢淳子 (52歳)

「詩人が表現するアメリカ南北戦争」

越田智喜 (53歳)

「融解層情報を活用したレーダー雨量計の観測精度の向上に関する研究」

小西雅子 (58歳)

「気候変動政策推進のための国際NGOとメディアの相互作用に関する研究 ―WWF戦略的広報を中心として―」

戸部浩美 (53歳)

「育児中の親のレジリエンスを高めるプログラムの効果 ―怒りの情動に焦点を当てて― ランダム化比較試験」

(五十音順、年齢は授与式当日)

2017●「博士号取得支援事業」 助成金授与者決定



財団会議室にて、理事長・松田妙子から6名の合格者一人ひとりに合格通知書と助成金目録が授与された。その後理事長室で桜餅をいただきながら懇談。理事長と張競選考委員長から励ましの言葉が伝えられた。



選考の言葉

選考委員長 張 競
(明治大学教授／博士（学術）)



選考委員一同を代表して、合格した方々に祝賀の意を表したいと思います。おめでとつございます。
本事業は今年で8年目を迎えます。合計応募者数は383名に達し、社会的知名度も上がっています。ひとえに松田妙子理事長をはじめ、事務局の皆さん、選考委員の諸先生のお蔭だと感謝しています。

今回の募集は昨年12月15日に締め切られ、37名の応募がありました。例年に比べて女性の応募者が多いのが特徴です。初応募の方に加え、2回目、3回目の挑戦を試みた応募者もいました。第一次選考では理事長および4名の選考委員からなる選考委員会により、14名の候補者が選ばれました。2月16日、第一次合格者の面接が行われ、第二次選考委員会による最終選考の結果、6名の合格が決定されました。

第一次選考の合格者は各分野において優れた研究業績を挙げた方々ばかりです。しかし、採用枠には限りがあり、最終合格者を絞らざるをえません。選考委員にとっては難しい判断でしたが、惜しくも選に漏れた方は一層精進し、来年以降も応募するようお待ちしております。そして、めでたく合格した方はますます努力し、一日も早く博士号を取得するよう、選考委員一同は心より期待しています。

本事業が実施されて以来、のべ61名が合格し、うち33名がすでに博士号を取得しました。2018年度中に学位を取得する予定の方も複数います。また、学位取得後、大学の専任教師、准教授や教授に就任した方々もいました。生涯学習が着実に社会に貢献していることの現れでしょう。

皆さんのご活躍を支援し、生涯学習を一層推進するために、選考委員一同は皆さんとともに、本事業のますますの発展のために微力を尽くしたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

2017

博士号取得支援決定をうけて



大槻俊明

67歳

東京農工大学大学院
機械システム工学専攻
研究専念

数値制御工作機械の
高速高精度性の評価と向上

■研究目的

CNC（数値制御）工作機械を用いて加工するユーザーの最大の要望は、要求された高精度の工作物を高速に加工すること。本研究では、高速高精度性を測定し評価するわかりやすい手法を開発することと、CNC工作機械が高速高精度に運動するための指令プログラムを開発することを目標とする。高速高精度性をわかりやすく評価できれば、ユーザーは目的に適したCNC工作機械を容易に選定できる。工作機械メーカーも機械の開発段階で、加工目的に適した特性として仕上げることが可能。指令プログラムの開発では特に曲線加工において、より高速高精度に運動するものを目指す。これらによって各産業の競争力の向上に貢献できる。

■合格のコメント

研究は定年後の充実した日々の原動力となっている。指令プログラムが開発され市販のソフトウェア（CAM）に適用できれば、それらを使用している多くのユーザーも、より効率良く工作物を加工できるようになる。これからは今回の研究成果を、最近、普及が進んでいる5軸（XYZの3軸に工具を傾けた2軸をプラス加工機にも適用可能な方法を見つけていきたい。さらに工作機械メーカー、ユーザー、測定器メーカー等と相談しながら実用化を目指す。



金澤淳子

52歳

早稲田大学大学院
文学研究科
早稲田大学文学学術院
非常勤講師／明治大学、
一橋大学 非常勤講師

詩人が表現するアメリカ南北戦争

■研究目的

アメリカ社会の根幹を形成する上で重要な転換期となった南北戦争。女性詩人エミリー・ディキンソン（1830～86）が書いた戦争を主題にした詩を通して、ピューリタニズムを基盤とするアメリカ文化の表層とは異なる、隠れた面を分析、解明する。戦争に参加しなかった女性詩人の立ち位置がどのように詩の表現に結び付き、乖離しているかの考察を通して、社会の周縁の声を分析することが研究目的。詩の友人への回覧、新聞掲載、非公開の流通をめぐる観点から論じたのも特徴。時代のネットワークに個人がいかに繋がるか、また敢えて拒むことで創造の場を確保できるかといった問題は現代にもつながると言える。

■合格のコメント

合格は驚いている。オバマ前大統領もファンのディキンソンは、岩波ホールで映画も公開された。現在、社会的ネットワークシステムによって人々が一見結び付いているように見える中、個人の尊厳が、どれだけ尊重されているのか。21世紀の文学の役割を考察することが、今後の課題。いくつもの天災、人災が起きている中、そうした事象を背景に、現代社会でのメッセージ性のある詩をメインに、文学の役割について論考を進めていきたい。



越田智喜

53歳

東京大学大学院
社会基盤工学研究科
環境系コンサルタント
会社・主任研究員

融解層情報を活用した
レーダー雨量計の観測精度の向上
に関する研究

■研究目的

国土交通省が都市型豪雨対策として整備したXRAINは、大きな降水の観測精度が格段に向上したが、小さな降水の観測には課題が残っている。レーダー雨量計を用いた弱い降水の観測時には、雪が雨に変わる際の誘電率が変化し、周辺よりもエコーが強くなる「ブライトバンド」という現象があり、誤差の原因となっている。本研究はブライトバンドの解明と、その補正によるレーダー雨量計の降雨観測精度向上を目指している。鉛直一次元ドップラーレーダーであるマイクロレインレーダー（MRR）を用いて、直上のレーダーエコー分布、雨滴粒径分布を観測、特に上空0℃高度付近に出現する高エコー域であるブライトバンドの特徴を整理する。

■合格のコメント

論文を審査する方たちが北海道、京都にいて旅費がかかったので、今回の助成金は助かった。今後は降水粒子の融解について数値計算を行い、レーダー雨量計の観測値を用いてブライトバンド領域の降水量の定量評価手法を検討する。レーダー画像からブライトバンド領域を判断する際に、近年、技術革新が進んでいる深層学習による手法を検討する。さらに交通管理用の雪の降り出し予測や、河川管理の融雪出水予測に生かすために、技術提案をする予定だ。

2017

博士号取得支援決定をうけて



小西雅子

58歳

法政大学大学院
公共政策研究科
WWFジャパン自然保護室
次長兼気候変動エネルギー
プロジェクトリーダー

気候変動政策推進のための国際NGO
とメディアの相互作用に関する研究
— WWF 戦略的広報を中心として —

■研究目的

気候変動対策の国際交渉を前進させ、日本の環境政策を進展させる新しい手法の開発が目的。その手法とは国際環境NGOが日本のメディアと新しい関係を築くことで、メディアに信頼性の高い記事の掲載を促し、環境政策の前進を図ろうとするもの。著者は代表的国際環境NGOである世界自然保護基金(WWF)ジャパンの広報を主導してきた。その豊富な内部情報を活用して、過去8年の取り組みと、過去20年の報道記事の調査分析から効果を検証する。一方で客観的な分析を行うために、2011年に発表された「国際環境交渉におけるNGOの影響力を分析するフレームワーク」を援用した記事検索手法にも特色がある。

■合格のコメント

助成合格は励みになる。洋書の購入など追加リサーチができて助かっている。博士号取得後もWWFの一員として、現場でパリ協定の実施に向けて尽力しながら、環境NGOとメディアの関係を深めていきたい。その知見を基に、行動する研究者として、世論を喚起し、環境政策進展に尽力する研究を継続していきたい。さらに国内、海外の大学において、培ってきた知見を後進育成に役立て、環境と経済が両立する社会のための人材育成に努めたい。



戸部浩美

53歳

東京大学大学院
医学系研究科
健康科学・看護学専攻
翻訳・通訳業

育児中の親のレジリエンスを高める
プログラムの効果 — 怒りの情動に焦点を
当てて — ランダム化比較試験

■研究目的

育児中の親は子供以外の要因でもストレスを抱えがちで、親子双方にとって長期的に深刻な影響を及ぼすことがある。本研究は、3〜6歳の子供を持つ親が、ストレス対処能力を高めるプログラムを受けることで、怒りの制御力を高め、怒りによる不適切な表出が低減するかを、ランダム化比較試験で検証することが目的。このプログラムは親向けに特化しているのが特長で、参加する親にとっても、提供する支援者にとっても、効果の高い内容になる。怒りは大切な感情であることを認めたで、怒りとの上手な付き合い方を学び訓練する。乳幼児健診や母親教室のような参加機会を設けると、虐待予防や親子双方のメンタルヘルスにもつながる。

■合格のコメント

研究結果を踏まえ、調査を実施した茨城県牛久市、静岡県三島市において、育児支援に携わる方々と協力し、育児中の親のための簡便なプログラムの提供を開始する予定。ストレスマネジメントやアンガーマネジメントを加味し、地域事業として取り入れることも検討中である。妊娠期からの切れ目ない支援のため、母親教室・両親教室への活用も検討している。不登校の子供を持つ親への活用なども積極的に取り組んでいきたい。

豊かで幸せな人生を、天然成分100%の香りでサポート

■人を内面から生き生きさせる香りの力に注目

一般社団法人日本アロマパルファンヌ協会は、「天然アロマ調香」の技術とサービスの普及を目的として、2012年に設立された。「アロマ」は香り、「パルファン」は香水の意味だ。

協会の活動を率いるトップ調香師の太田奈月さんは、美容の勉強をしにカナダに留学していた1996年、まだ日本では知られてなかったアロマテラピーに出会った。内面から人を生き生きとさせる香りの力に注目し、イギリスに渡りホリスティックアロマテラピーを学ぶ。

帰国後スクールを設立するとともに、天然素材100%の香水を開発。人ごとに独自の香りを導くカウンセリング技術も確立した。その人に最適な香りIIパーソナルアロマは、セッション（カウンセリング）によって、これからどう生きたいのか、どういう場面で香りを活かしたいかをいっしょに考え、香りの素となる植物（花、果実、葉、種、苔など）の写真を見て何に惹かれるか、そうしたいくつかの答えからその人の生きる力を後押しする、意味のある香りを生みだす。「香水の匂いは苦手」と敬遠していた人ほど、セッション体験後にファンになる人が多いそうだ。

■第二、第三の人生の扉を開くお手伝い

太田さんが校長を務めるアクトインターナショナルスクールでは、生涯学習開発財団が認定するアロマパルファニストの資格のほか、アロマテラピーの基本を学ぶAEAJ認定資格、世界最高水

●一般社団法人

日本アロマパルファンヌ協会

〒162-0845

東京都新宿区市谷本村町2-10

ストリーム市ヶ谷8F

TEL : 03-5579-8876

E-mail : info@aroma-parfume.com

URL : aroma-parfume.com

2012年7月 設立

2016年10月 協賛会員登録



体験レッスン、セッション、講座受講等については、Webサイトをご参照ください。



写真：髙原裕治



取材にご対応くださった、協会理事でNatsuki Ohta Japan グループ代表の太田奈月さん。

準の資格とされるIFA国際アロマセラピスト資格が取得可能だ。さらに資格を生かして仕事をしたい人をフォローする、サロン開業のための各種講座も提供している。

香りに興味がある女性が多いが、仕事にしようとしたとき、マッサージを伴うアロマテラピーは、体力や施術スペース、さらに他人の肌に触れる心理的なハードルもあり、二の足を踏む人多い。しかし、アロマパルファニストとして仕事を始める場合は、そうした心配はない。多くの人が香りを通して第二、第三の人生の扉を開いており、協会はその後押しをしている。

■地域貢献や日本文化発信の取り組み

太田さんの実家は静岡の日本茶生産農家で、茶葉を蒸すときの香りが子供の頃から好きだったという。日本茶の消費が減少する中、茶葉の香りを香水にできれば、地域の美しい茶畑を守る農家の支援ができるのではないかと考えた。蒸気から香りを回収する特許技術を開発し、2016年に世界初の日本茶から抽出した天然アロマを発売。香水の本場は西洋だが、逆に日本文化の一端を世界に発信する役割も担っている。

スクール卒業生たちと協力し、アロマテラピーを社会に役立たせる活動にも積極的に取り組む。医療・介護・リハビリ施設でのアロマトリートメントは11年続く。ほかにも、妊婦へのトリートメント、住宅の香り提案、ミス・ユニバースジャパンの香水指導など、可能性を広げている。

鬼の学び①生涯学習って何？

作家／出版プロデューサー／劇団主宰

鬼塚忠のアンテナエッセイ

先日、新聞の紙上で、「何のために勉強するのでしょうか」という少年の問いに対し、著名な教育者が、「勉強は将来の職業の選択肢を増やすものです。頑張れ！」と答えていた。その時は何の疑問もなく正論だと思ったが、こうして生涯学習についての執筆依頼がきて、あらためて「学ぶとは何か」を考えてみると、私なりの学びの理想像が見えてきた。

学びとは、ただ純粋に知的欲求を満たすための行為ではないだろうか。将来の自分に寄与しなくても、仕事の選択肢が増えなくても、人生の無駄になっても、それは

それでいい。人生が豊かになれば。

学ぶということはかなり楽しいことで、頑張る必要もない。頑張れ！ではなく、楽しめ！がふさわしい言葉のように思える。

元来、私は理系で、歴史が嫌いだった。ところが、今では歴史好きとなり、それが長じて『花戦さ』（角川書店）という歴史小説を書いた。もしかすると嫌いだった原因は学校の授業にあったかもしれない。先生が話す歴史の内容は面白いが、話し方がつまらないのでかなり退屈していた。

そのことがずっと頭の片隅に引っかかっていたのだが、2年前、その解決策が浮かんだ。坂本龍馬や、徳川家康、マリーアントワネット、クレオパトラ、織田信長、千利休といった過去の偉人たちをタイムマシンで現代に

呼び寄せ、彼らに歴史（いや、彼らにしてみれば当時の状況なのだが）を一人称で語らせるという企画だ。これなら、脚本を書く自分も、公演を見に来るお客さんも楽しみなが学ぶことができる。

私は思いついたら実行しないと気がすまない。さっそく「劇団もしも」と命名して、明治大学の大人のための課外講座シリーズで公演を催したら、好評を得た。イケメン武将集団として活躍する「名古屋おもてなし武将隊」とコラボするなどの広がりを見せ、今では日本全国のイベントや学校に呼ばれるほどである。今年も、東京と名古屋で開催するつもりだ。

偉人たちを演じるのは、もともと梅沢富美男の梅沢劇団元劇団員であり実力派俳優の速水映人。女役も含めて老若男女を演じ分けることができるので、坂本龍馬として刀やピストルを振り回したかと思えば、マリーアントワネットに扮してフランス革命を背景に平和や博愛、平等について語る。クレオパトラになった時は、国家を統治することとカエセルたちとの愛を両立させる方法を艶やかに語って観客を魅了した。

ときには、呼び出す偉人をふたりにして、一つのテーマについて討論させたりもする。

たとえば、前回の公演では、江戸幕府を開いた徳川家康と、江戸幕府を終わらせようと奔走した坂本龍馬を過去から呼び寄せ、江戸時代とは何だったのかを議論させた。はじめ家康は、命をかけて作った江戸幕府を終わらせようとする龍馬に怒り狂う。しかし討論が進むにつれて、この日本を守り、平和な世を作るために倒幕は必要だと説く龍馬に共感を覚えるようになる。そして、家康

←幕末、慶応3年11月15日の日中から現代にタイムスリップした坂本龍馬。そう、その日はあの日なのです。

↓織田信長の戦国時代講義



↑私と徳川家康との対談。徳川家康に学ぶべきは、失敗から学ぶ力。



←マリーアントワネット。「パンがなければお菓子を食えばいいじゃない」と言ったとか、言わなかったとか。

● 著者プロフィール

鬼塚忠（おにつか ただし）1965年鹿児島市生まれ。鹿児島大学卒業。大学卒業後、2年間かけて、アジア・オセアニア、中近東、アフリカ、ヨーロッパなど世界40か国を放浪。ヨーロッパでお金が底をつき、シベリア鉄道で帰国。帰国時、所持金は1万円を切っていた。1997年より2001年6月まで海外書籍の版權エージェント会社「イングリッシュ・エージェンシー」に勤務。映画の原作、ビジネス書、スポーツ関連書籍など年間60点ほどの翻訳書籍を手掛ける。次に海外の作家ではなく、日本人作家のエージェントをしたいと思い、2001年10月にアップルシード・エージェンシーを設立。現在では作家のエージェント会社の経営者であるとともに、作家、脚本家、劇団もしも主宰でもある。著書『風の色』（講談社）2018年映画化。『花戦さ』（角川書店）2017年映画化。日本アカデミー賞優秀作品賞受賞。『Little DJ』（ポプラ社）2007年映画化。『カルテット!』（河出書房新社）2012年映画化。『海峡を渡るバイオリン』（河出書房新社）2004年フジテレビ45周年記念ドラマ化。文化庁芸術祭優秀賞受賞。『恋文讃歌』（河出書房新社）、『僕たちのプレイボール』（幻冬舎）2012年映画化など多数。



▼「劇団もしも」公演情報

5月19日・20日 名古屋工業大学（名古屋）
6月30日・7月1日 明治大学（東京）

チケット発売：4月6日
プログラム等の詳細は検索「劇団もしも」と「名古屋おもてなし武将隊」サイトにて

（注）場所は変更になる可能性があります。



↑左から、織田信長、著者、千利休

→徳川幕府を開いた徳川家康、終わらそうと奔走した坂本龍馬。

↓クレオパトラは、愛と政治を語った。



↑織田信長と千利休が時空を超えて裁判で争う!?



↑坂本龍馬が千葉県の中学校でいかに生きるかの講義

←歌舞伎の始祖と言われる
出雲阿国（いずものおくに）

や龍馬に、太平洋戦争では、アメリカを相手にたった二発の爆弾で日本が減びそうになったことを聞かせ、ふたりそれぞれの立ち位置から戦と平和について語ってもらった。最後には、現代の日本の状況についても聞かせ、これがふたりの望む日本だったかを観客と共に検証する。また別の公演では、織田信長と千利休を現代に呼び寄せて、裁判を開いた。織田信長が行った名物狩りは犯罪ではないのかと、利休が恐れながらも裁判官に訴える。「名物狩りは強制的で犯罪にほかならない」とする利休に、信長は貨幣経済の有効性を説き、茶器や絵画などの名物を買って上げて貨幣を流通させ、物々交換から脱却させたことで経済的に裕福な世になったと主張する。裕福な数人のわずかな不幸より、全体の幸福を優先するべきだという。観客は陪審員となり、訴えの是非を決めるという内容だった。

そもそも歴史は試験のために覚えるものではなく、過去の事例を判断材料に、私たちの生きる世の中、またはこの先の将来をどう変えていくか考えるために勉強するものだ。

こうして改めて歴史の断片を劇にして、一人の人間として書いてみると、「ああではないか」「こうではないか」と、いままで考えもしなかった関連情報や時代背景が見えてくる。そうすると、教科書には書かれていないことを調べる必要が出てくる。偉人になりきってどう行動したかを想像するのは面白いし、その結果、平面的であった教科書がリアルに感じられ、立体的な視点で社会を見られるようになった。こんな風に、大人ならではの楽しい学びの体験ができた。

生涯学習とは、無理やりに勉強するものではない。決してストイックになる必要はなく、あなたはあなたの方法で、あなたの興味の赴くままに、学びを楽しんでみてはどうだろうか。



**全ての人を幸せにする
JEWELRY**

● 湊澤博子（しづさわ ひろこ）さん

大手ジュエリーブランドにてデザイナーとして活躍したが、心身ともに疲れ果てジェリー本来の意味を再考。買う人はもちろん、制作や販売も見直し、関わるすべての人を幸せにするブランド「Uka〜羽花〜」を立ち上げ。



**場の力でパーキンソン病の方の運動
継続を促しつつまでも豊かな暮らしを**

● 小川順也（おがわ じゅんや）さん

理学療法士の小川さん。パーキンソン病患者が退院しても、家で運動を続けられず悪化する状況を改善したい。当事者と共に作る「PD Cafe」は情報共有と相互扶助の場。小平市から始まり現在7拠点、全国に拡大中だ。



**「一人一人が主人公」
サンシャインプロジェクトを日本に**

● 細越美和（ほそごえ みわ）さん

高校時代に失った自信を取り戻してくれたのが、一人ひとりが主人公になれるカナダ留学。その経験を活かして、障害や不登校など悩みを持つ人をカナダ留学サポートし、約9割が元気を取り戻す。日本国内での展開を計画。



**ゲームを活用し、
より良い社会と未来へ**

● 後藤 誠（ごとう まこと）さん

ゲーム制作に関わってきて「ゲームに救われた」「ゲームで友人ができた」「人生が変わった」など、日本製ゲームの力を実感。災害、医療、社会問題などをシリアスゲームにして、生きる力やリアルな行動変化につなげたい。



**【大学生枠】政治の見える化によって
社会に前に進める**

● 三輪功祐（みわ こうすけ）さん

民主主義国家として日本人は政治に無関心・無思考の人が多すぎる。昨年の参院選でテストした中立的・網羅的選挙情報サイトが1週間300万PVの大成功。さらに発展させ、関心の喚起、選挙と政治の可視化を目指す。



財団理事長代理・佐藤梨奈からグランプリの小川順也さんに起業助成金の目録を授与。

2月25日に開催された「ソーシャルビジネスグランプリ2018」。2年ぶりに基調講演に立った田坂広志名誉学長の講演テーマは、「日本型社会起業家とは何か―社会起業家は資本主義を変える―」。日本人にとってソーシャルビジネスという言葉は「白い白鳥」と言うような違和感を感じる。海外では営利追求と社会貢献は別のものとして語られるが、従来の日本の商人は社会貢献の結果が利益であると考えた。アショカのビル・ドレイトンと話した反応からも、間違いなく日本型が世界基準になると予測する。さらに「使命」とは命を使うこと。限りある人生で自分の命を何に使うのか、共感できる仲間と何を成し遂げるのかしっかり考えてほしいと訴えた。

ファイナリスト5名によるプレゼンでは、大学生の三輪功祐さんが共感大賞を獲得。「大学生にはなかなか共感してもらえなかったのが嬉しい」と笑いを誘った。グランプリは理学療法士の小川順也さんが取り組む、パーキンソン病患者の運動継続支援をする場作り。「患者やスタッフみんなの力を引き出して、よりよい場を作っていきたい」と応えた。小川さんには当財団の起業助成金が授与された。

自分の中を変えたいなら自分が変わらなくてはと田坂名誉学長。



自分の中を変えたいなら自分が変わらなくてはと田坂名誉学長。



自分の中を変えたいなら自分が変わらなくてはと田坂名誉学長。



ソーシャルコミュニケーションタイムとして設けられた、社会起業大学の学生やOBの活動紹介ブース。



来場者が選ぶ共感大賞の投票コーナー